

令和5年11月定例会

教育委員会定例会会議録

書記 亀山 侑可

塩竈市教育委員会定例会会議録

◆日時 令和5年11月29日(水) 午後4時18分～午後4時58分

◆場所 塩竈市民交流センター 第2・3会議室

◆出席委員

教育長職務代理者 高橋 輝兆 委 員 松田 攝子
委 員 菅井 信吉

◆欠席委員

委 員 佐藤 香

◆事務局

教育部長 星 和彦 次長兼教育総務課長 小倉 知美
参事兼学校教育課長 松崎 和佳子 参事兼生涯学習課長 櫻下 真子
参事兼文化スポーツ課長 武田 光由 教育総務課主事 亀山 侑可

◆定例会次第

- 1 開会
- 2 前回会議録の承認
- 3 会議録署名委員の指名
- 4 教育長等報告
 - ①第4回仙台管内教育委員会教育長会議
 - ②県教委・市町村教委教育懇話会
 - ③本市の教育活動の状況
 - ④塩竈市議会9月臨時会の概要について
 - ⑤定例会の概要について
- 5 その他報告
 - ①令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について
- 6 閉会

1 開会 午後4時18分

2 前回会議録の承認

松田委員から報告、承認

3 会議録署名委員の指名

松田委員と菅井委員を指名

4 教育長等報告

星部長から、以下のことについて報告

- ①第4回仙台管内教育委員会教育長会議
- ②県教委・市町村教委教育懇話会
- ③本市の教育活動の状況
- ④塩竈市議会9月臨時会の概要について
- ⑤定例会の概要について

〔主な質疑〕

松田委員 p.5 菅原議員の「学校再編の考え方について」の質問に対する答弁に、4年間に学校再編の目指すべき方向性を取りまとめてまいりたいとあるが、今年度から4年間ということなのか。

教育部長 市長の4年間の任期中に方向性を示すという意味である。

松田委員 p.8 志子田議員の「『学び支援教室』と『コラソン』について」の質問に対する答弁に、令和3年度の不登校の出現率とあるが、令和4年度ではなく令和3年度の情報なのか。

教育部長 不登校の出現率について取りまとめたのが令和3年度であり、令和3年度の結果を報告した。令和4年度以降については、今後取りまとめていく。

5 その他

松崎学校教育課長から、以下のことについて報告

- ①令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

〔主な質疑〕

松田委員 p.7の全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、塩竈市は全国平均と比べ自己肯定感が低い結果が読み取れる。みんなで褒め合う・認め合うような学級・人間関係づくりが大切であり、子供たちは、先生や保護者だけでなく身近な友達から褒められることで、より自己肯定感が増し自信がつくと思う。例えば、授業の中で、先生が全体の場で子供たちを褒めることに加え、友達と褒め合い子供たち同士で共感・認め合う時間を増やすことが、自己肯定感を高めることに繋がると思う。授業を見るときはそういう視点で見て、先生方に伝えてほしい。

学校教育課長 おっしゃるとおりで、小学校では、各校長先生が学校の先生方に、子供たちの良いところをみつけたり、子供同士で友達を褒めたりすることを大切にするよういつも伝えている。また、中学校では、学級活動などでクラスメイトの良いところを紙に書き、お互い褒め合うような教材等があり、普段の学校生活の中でも自然にお互いの良いところを言いやすくする工夫をしているが、今後もこれらの良い例を紹介していきたいと思う。

松田委員 p.18、20の学級満足度調査では、令和元年度・2年度は年に3回調査をしているが、令和3年度・4年度は6月と11月の年2回に減っている。6月と11月の時期に調査を実施する理由はあるのか。

学校教育課長 1回目の調査は、4月だと子供たちが学級に慣れていないため現状をしっかりと把握することが難しい。そのため、行事を経験し学校生活に慣れてきた頃が適切と考え、6月に実施している。2回目の調査は、小学生は大きな行事、中学生は定期テスト、様々な人間関係を経験した頃が適切と考え、11月に実施している。また、11月に調査を行うことで、6月から11月までの成長を確認できるとともに、3月までの関わりや次年度の見通しを持つことができる。

松田委員 6月の調査で満足だった子供が、11月に不満足になったという結果もあり得ると思う。一人ひとりしっかり見ていく必要があると思うので、個々に応じた教育を行ってほしい。

高橋委員 p.3の学力・学習状況調査では、塩竈市は全国・県との学力の乖離がかなり大きい。p.8、9の質問紙調査を見ると、塩竈市の子供たちは勉強をしている時間が少ないことが分かる。簡単に解釈すると、勉強する時間が少ないから学力が

伴わないと読み取れるが、塩竈市の子供たちは、勉強をしていない時間は何をしているのか。授業の枠の外に勉強する時間をつくり、学力の底上げをすることが必要だと思う。子供たちが学校に残って学習させるようなシステムをつくることは不可能なのか。

学校教育課長 学習時間が少ない原因として、ゲームやスマホの使用時間が多いことが挙げられ、家庭の協力が必要になってくる。対策としては、小学校では、生涯学習課主催の放課後子ども教室やわくわくで遊び隊などの事業に子供たちが参加することや、中学校では、長期休みに協定を結んでいる大学の学生から勉強を教わったりする場を設けることその他、各中学校でも補修を行ったりするなど、定期的に学びの場を設けている。

高橋委員 スマホを使用する時間が相対的に長くなっているので、学習する場所をつくり子供たちに学校にきてもらうなど工夫をしないと成績があがらないと思う。学習の場をつくることを今後も検討してほしい。

6 閉会 午後4時58分

《会議録署名委員》

(松田委員)

(菅井委員)